

Pick up!

デジタル教育で、可能性を広げる

上磯中学校では、GIGAスクール構想で整備された端末を活用しています。グループ学習では、複数の人がオンライン上で同時に作業することができるTeams というツールを使うことによって、コミュニケーションを取りながら学習を進められる点がとても役立っていました。

また、デジタル機器を活用しながら対面での学習を強化したことによって、情報リテラシーの向上にもつながっています。



GIGA スクール構想とは？

全国の小学校・中学校のICT環境を整備する中で、インターネット利用のために使うネットワークやパソコンを一体的に整備する考え方であり、その整備にかかる費用を国が補助する制度です。

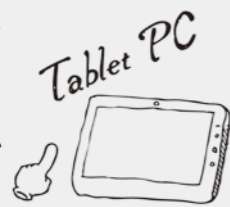
北斗市では、2021年に市内小中学校において、1人1台のタブレット端末が整備されています。

Teamsとは？

Microsoftが提供するオンラインのツール。

これを使うと、オンライン上で簡単にコミュニケーションをとったり、仕事やプロジェクトを管理したり、ファイルを共有したり、会議を開いたりすることができます。ビジネスや学校で使う例が増えてきています。

ちなみに、北斗市のDX検討チームもこのツールを活用しています。



**ふるさと学習のテーマ
8分類**

- スポーツ
- 観光
- 医療、福祉
- 商業、工業
- 文化、歴史
- 教育
- 防災
- 農業、漁業

各クラス8テーマに分かれ
テーマごとに調べ学習を行いました。

情報が溢れる時代だからこそ全ての情報を信じるのではなく、その情報が正しいかどうかを確認して必要なものを選びとる『情報リテラシー』という能力が、年齢に関係なく必要です。今回、生徒たちが伝える側の視点に立つことによって、情報リテラシーの能力や、自分の考えを伝えることができる『伝達力』を高めることができました。のではないのでしょうか。

こういった学習を通じて、地元のことを知る機会が増え、ふるさとのことや自分の言葉で語ることににより『シビックプライド』が育まれていくことを期待しています。

「住んでいる一人ひとりが主役として輝き、さまざまな仕事をしながら、大切な役割を果たしている。その力が結集して、ふるさとである北斗市が

『わたしたちにもできること』という視点で話し合う現場を取材し、取材した内容を掲載しながら、みなさんと一緒に北斗市のまちづくりを考えていく、広報ほくと連載企画「小・中学生と考える北斗市のまちづくり」。今回は、上磯中学校のふるさと学習を取材しました。



取組みにあたって、まず学年ごとの目的を次のとおり定めました。

- 1学年「社会を知る・学ぶ」
- 2学年「他の地域と比較して考えてみる」
- 3学年「ふるさとを見直す」

初年度は、北斗市を支えるさまざま

私たちが今できること 北斗市を知る・考える そして伝える

形成されていることを、今回のふるさと学習を通じて、生徒たちに気付いて欲しかった。

そう語ってくれた上磯中学校の1学年団教諭のみなさん。

上磯中学校では昨年までは、地域を知るといった目的で職業体験を実施していましたが、より広く北斗のまちを学ぶという視点に切り替え、3年間の計画を策定し、内容のアップデートを図りました。



小・中学生と考える 「北斗市のまちづくり」

上磯中学校 ふるさと学習から

まな業種を任意で8つに分類し、分類した各業種の役割や仕事の内容について、グループを編成し調べ始めました。そして、そこから得た知識を自分の言葉で伝えようと、市役所職員をゲストスピーカーとして招待し、発表会を開催。市役所職員から、発表した内容だけではなく、発表の仕方へのアドバイスやインターネットには載っていないリアルな現場の話聞くことができました。

生徒たちは振り返りの中で、

- インターネットを調べても出てこない情報があることが改めてわかり、今回のように有識者に尋ねたりすることも大切だと思った。
- 自分の住んでいるところなのに、何も知らなかった。もっと知らなければならぬと思う。
- データがいつのモノか確認するなど情報の扱い方には気をつけなければいけないと思った。

など、まちを知ることを通じて、さまざまなことに気付いたようです。



学年選考会で発表した
1年2組文化・歴史班のメンバー

文化や歴史を知ること 文化や歴史を守ること

生徒の投票で選ばれ、学年代表として文化祭の大舞台で発表した、1年2組文化・歴史班のメンバー。

代表に決まっただけからは、三木露風と北斗市の関係を盛り込むなど内容に磨きをかけ、文化祭の発表に臨みました。

「そもそも文化や歴史について知らないよ、どんな仕事があるのかわからないよ」と市役所の人にアドバイスされ、細かく調べなおして、説明できるようにしました」と話します。

「北斗市の昔にあったことや今も続いている伝統などを知り、さまざまな人に伝えることは、北斗市の文化や歴史を守ることに役立っています」と、最後の発表では、自分の言葉でハッキリと伝えることができました。

あとがき

北斗市を誇りに 思えるように

北斗市では、生まれ故郷を誇りに思い、愛着や共感をもち、まちのために自ら関わっていかうとする気持ち、いわゆる『シビックプライド』を醸成するため、ふるさと学習にも力を入れています。

上磯中学校では、今年度よりふるさと学習の取組みを始めました。市の防災、産業、教育、文化、歴史など分野ごとに現状を調べ、考え、それを人にどう伝えるかをグループでまとめて紹介することで、「北斗市ってどんなまち？」であるかを、自分の言葉で伝えることができるようになったのではないかと思います。

今後、ふるさと学習で学んだことを生かし、どうしたらもっとまちをよくできるか、自らで何ができるかを考えていただき、近い将来、進学や就職により北斗市を離れることがあったとしても、一人ひとりが北斗市の良さを他の地域の人に伝えることができるようになることを望んでいます。

(社会教育課長 佐藤 毅)